

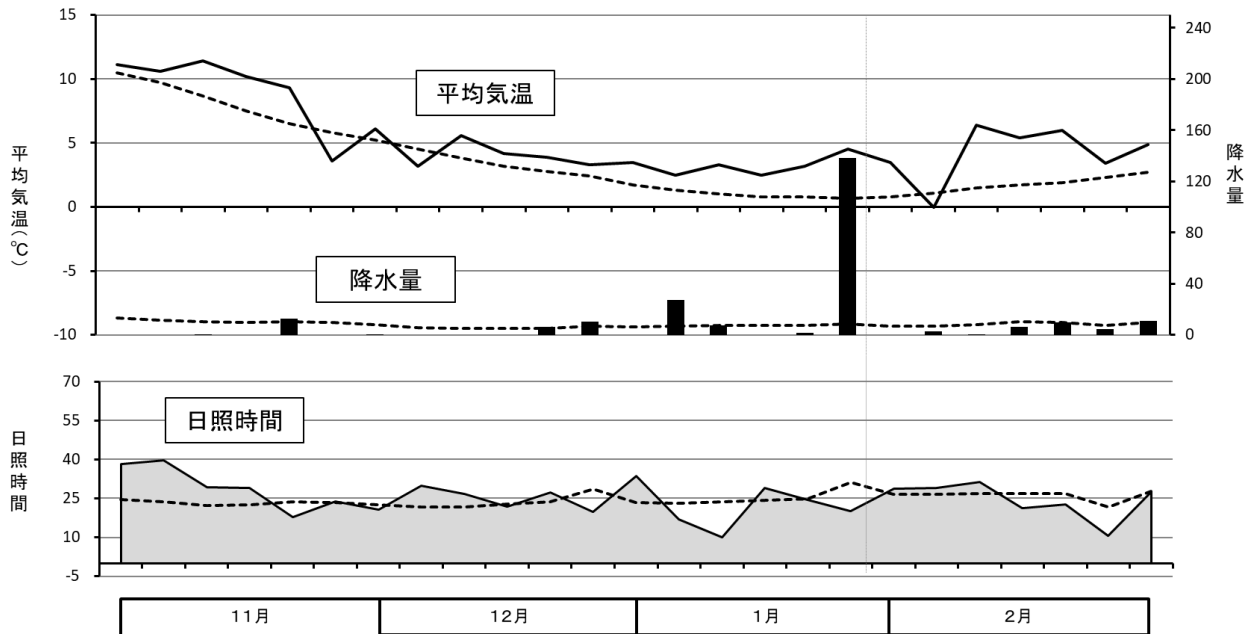
[令和2年3月23日]

麦の栽培管理について

大河原農業改良普及センター

1 気象経過(丸森アメダス)

※令和元年11月～令和2年2月



- ・11月以降、平均気温は平年よりかなり高く推移した。
- ・日照時間はほぼ平年並み。降水量は1月末に1日当たりの降水量が100mmを上回った日があったが、全体的には平年並み～やや少ない傾向であった。

2 生育経過等について

令和2年産(令和元年は種) 生育調査結果(3/20現在)

調査日	品種等	播種日	項目	本年	前年比(差)	平年比(差)※
3月19日	シュンライ	11月10日	草丈(cm)	14	138.6	120.2
	金ヶ瀬		莖数(本/m ²)	828.8	111.1	125.7
			幼穂長(mm)	2.5	1.3	0.0
	ホワイトファイバー	11月8日	草丈(cm)	15.7	—	—
	金ヶ瀬		莖数(本/m ²)	1152.4	—	—
			幼穂長(mm)	2.22		

※平年は過去5カ年の平均

- ・令和元年東日本台風(台風19号)の影響もあり、令和2年産の麦類については、播種作業が遅れ、11月～12月に入ってから播種したほ場が多かった。
- ・しかし、11月以降の気象が平年よりも高く推移したことから、大麦(シュンライ)については、前年よりも生育が進んでおり、3月上旬～中旬には「幼穂形成期」に達するほ場が多いと見られる。

2 今後の作業について

- 1 「麦踏み」は適期を過ぎたと見られる。
- 2 幼穂形成期追肥の実施と減数分裂期追肥の準備をする。
- 3 今年度は生育が進んでいることから、出穂・開花期は早まると見込まれるので赤かび病防除の準備を早めに行う。

(1) 「麦踏み」について

- ・生育が進んでいることから、大麦は3月上旬に、ほとんどのほ場で、すでに麦踏みの時期は過ぎて見られる。
- ・小麦はまだ可能と見られるが、ほ場が乾いたタイミングで実施することとなるため、茎立ちしている場合は実施を見合わせる。

(2) 「追肥」について

① 大麦の追肥

(肥料単位：kg/10a)

追肥時期	追肥時期の目安	追肥量(窒素成分)	硫安現物
幼穂形成期	幼穂長2～3mm	2.5kg/10a	12kg/10a
減数分裂期	幼穂長20～30mm	生育良好時	12kg/10a
		生育不良時	10kg/10a

(注意) 大麦では、生育量が不足しているほ場に通常量の追肥をすると硬質麦を生じやすくなるため、この表から1kg程度減らすこと。

② 小麦の追肥

追肥時期	追肥時期の目安	追肥量(窒素成分)	硫安現物
幼穂形成期	幼穂長2～3mm	2.0～3.0kg/10a	10～15 kg/10a
減数分裂期	幼穂長20～30mm	5.0kg/10a	25kg/10a
出穂期～穂揃期		2.0～3.0kg/10a	10～15kg/10a

(4) 病害防除

- ・赤かび病防除は出穂期以降（開花期頃1回目、その7～10日後2回目）となるが、今年度は生育が進んでいることから早めに準備を進める。

(5) 排水対策

- ・排水機能に難のあるほ場では、明きよの補修など排水対策を万全にする。

※雑草防除について

- ・今年度は生育が進んでおり、かなりのほ場で3月上旬には節間伸張期～茎立期に入っていると見られる。生育の状況、使用基準を確認し、必要に応じて防除する。

※参考

今後の生育予測

生育予測（生育調査ほ：シュンライ）

予測値	本年	前年	平年
減数分裂期	4月19日	4月22日	4月18日
出穂期	4月27日	4月30日	4月26日
開花期	5月3日	5月6日	5月2日